

令和6年度 産業建設常任委員会行政視察報告

- ◆ 参加委員 委員長 佐藤運喜
- 副委員長 佐久間好夫
- 委員 本多俊昭
- 委員 小野利美
- 委員 堀籠新一
- 委員 斎藤広二
- 委員 佐藤源市



視察の様子（八代市）

- ◆ 視 察 先 熊本県菊池市
- ◆ 視察内容 菊池温泉を活用した観光振興策・農業との連携策
地元農産物と6次産業化の推進
- ◆ 視 察 日 令和7年1月29日（水曜日）

まず、「菊池温泉を活用した観光振興策・農業との連携策」についてですが、菊池市では、旅館等が抱える構造的課題の解決と菊池温泉街の再生及び魅力向上を図るため、令和6年3月に菊池温泉街リブランディング基本構想、令和7年1月に実行計画を策定しました。

取組方針として、1. 旅館・ホテルの経営基盤強化、2. 食を通じた温泉街の魅力化、3. 景観まちづくりの推進の3つを定め、取組方針ごとにプロジェクトチームを立ち上げ、旅館・ホテル、飲食店、観光関連団体、商工会、農業団体、まちづくり団体、地元区長及び行政機関が連携し取り組んでいるとのことでありました。

具体的な取組としては、ブランドイメージやキービジュアルの策定、外部団体からの専門家派遣による温泉街の経営コンサルティング及び環境省のモデル事業を活用したプロモーション等を行っております。

当市においても、外部団体からの専門家派遣による温泉街の経営基盤の強化、温泉街・地元飲食店・農業が連携した食を通じた魅力の発信といった地域資源を一体的に活用する取組は参考とすべき点であると感じたところであります。

次に、「地元農産物と6次産業化の推進」についてではありますが、農林畜産物の加工品開発等による「菊池ブランド化」を推進し、6次産業化推進と儲かる農業の確立を目指す、菊池ブランドづくり補助金を設けております。

具体的な内容は、土壌分析、ホームページ作成、加工品開発に係る機械の導入経費に対する補助であり、令和5年度には、28件の申請で、計526万円の実績があるとの説明がありました。

また、良食味米生産に対する意識向上を目指すため、平成16年から菊池米食味コンクールを開催、更に平成28年からはコンクールの最高賞受賞者等で構成される菊池米「匠の会」を発足し、ブランド米「匠米」としてふるさと納税の返礼品や販売を行っており、日本穀物検定協会の食味ランキングにおいて最高評価である特Aを14回獲得することに繋がっているとのことでありました。

当市においても、ブランド推進室を設け、地元農産物を使い多くのブランド商品を生み出している点や、一般的な基準にプラスして、市独自の安心・安全基準を設定することにより、農林畜産物の更なるブランド化・高付加価値化を図る点等大いに参考となったところであり、当市の特性にあった取組を検証し取り入れていく必要があると感じたところであります。

- ◆ 視 察 先 熊本県八代市
- ◆ 視察内容 八代観光DMO
フードバレーやつしろ基本戦略構想
- ◆ 視 察 日 令和7年1月30日（木曜日）

まず、「八代観光DMO」についてであります。八代市では、大きく変化しているマーケットに柔軟かつ的確に対応するという課題に対し、地域の稼ぐ力を引き出すため、明確なコンセプトを持った観光地域づくりに取り組むことが重要と判断し、官民一体となった観光地域づくりをめざす任意団体を発展させ、観光地域づくり法人「DMOやつしろ」として平成28年3月に一般社団法人化しました。

DMOの組織については、副市長が代表理事となり、常勤職員9名、民間からの派遣職員1名及び市からの派遣職員1名の計11名で構成され、一般会員として、104の事業者が加盟しておりますが、財源については事業収入が約2割で残りは補助金等であるとの説明がありました。

主な事業としては、「地域が一体となった料理・温泉を活用したONSENガストロノミー事業」の実施、やつしろ全国花火競技大会等の地元と連携したイベントの実施、観光ポータルサイト「きなっせやつしろ」の運用等であり、飲食店を中心とした地元経済への波及を目的としております。

また、八代市には、世界最大級のクルーズ船の受け入れ可能な港が整備されており、コロナ禍以降の寄港数も増加傾向にあるため、乗船客が市内を周遊することによる経済効果を見込んでいる一方で、安定的な運営資金の確保やDMOをリードしていく中核的人材、マンパワー不足による職員への負担増が課題となっているとのことでありました。今後、市との連携強化、新規事業の推進、外部機関を活用した研修の実施、対外的なアピールによる中核的人材の確保・推進に取り組んでいくとの説明がありました。

当市においても、DMOの自主財源確保は重要な課題であるため、地域資源、地元企業等との協力体制構築による事業の推進等は参考にすべき点であり、八代市同様に、最終的には地元経済への波及が目的であることを意識して取り組むことが必要と感じたところであります。

次に、「フードバレーやつしろ基本戦略構想」についてであります。八代市では、農林水産物の高付加価値化と関連産業の集積により「食」に関するあらゆる産業の活性化を目指す「フードバレーやつしろ基本戦略構想」を策定し、地域に、食べ物でお金を稼ぐ仕組みの構築を推進しております。

具体的な取組として、こだわりを持った地域特産品の生産、市内及び大都市圏でのイベント開催やマスメディアを使った各種PR活動の実施、事業者や農家への積極的な個別訪問による、二人三脚での新商品開発、販路拡大や食関連人材の育成等を実施しているとのことでありました。

また、専門の外部アドバイザーに委託しての事業者支援、県や近隣自治体との情報共有、農業団体や商工会議所との連携等、事業をより活性化させていくためには、官民一体となり取り組んでいくことが必要であるとの説明がありました。

当市においても、食べ物でお金を稼ぐ仕組みを構築するには、八代市同様に、庁内各課が連携して全庁的に関連事業に取り組んでいく必要があります。そのためには、課題、将来像、基本目標、基本方針等を明確にし、より共有しやすくする点は参考にすべきと感じたところであります。

- ◆ 視 察 先 鹿児島県霧島市
- ◆ 視察内容 リノベーションまちづくり
- ◆ 視 察 日 令和7年1月31日（金曜日）

霧島市では、人口減少、増え続けるまちなかの遊休不動産、低下する地価、衰退するコミュニティといった都市経営課題を抱えております。これらの課題を解決するために、自然・歴史、これまで磨き上げてきた人・食といった地域資源を、新たな資源である遊休不動産と融合することにより、エリアの価値を高め、ヒト・コト・カネを集中させることで、魅力の向上・新たなチャレンジ創出を生み出し、既存エリアで不足している機能の補填を促すリノベーションまちづくりの取組を推進しております。

具体的な取組としては、方向性を決定するための講演会・戦略会議の開催、「霧島リノベーションまちづくり推進ガイドライン」の作成、関連事業のサポートを行う霧島リノベーションまちづくり実行協議会の運営、きりしま女子企業ラボやリノベーションスクールを開催することにより、リノベーションに対する機運の醸成を図っているとのことでありました。

また、助成金に頼らない民間主導の公民連携を掲げているため、リノベーションを希望する方へ市からの助成金等の支出はなく、ガイドライン等のビジョンの策定、各種セミナーの開催による啓発・意識改革、創業支援プログラムの実施等による人材発掘・育成が市の役割であるとの説明がありました。

これらの取組により、創業者の増加等緩やかではあるが、成果が出てきている一方で、令和5年度より、民間による自立・自走への移行を目指してきましたが、実行協議会については、国や市からの補助金に依存する部分が多いなど、課題もあるとのことでありました。

当市においても、遊休不動産の増加やコミュニティの衰退等の課題を抱えているため、まずは人が出会う機会や仕組みを構築すること、行政と民間が適切に役割分担をしながら、まちのにぎわいを生み出し、課題解決に繋げていく取組について参考とすべき点があると感じたところであります。